

2008 迎春

社団法人
発行所：ジェネティクス北海道 発行人／那須貞友

SIRE

1

平成20年1月20日号
2008 January
Vol.368

サイア

CONTENTS

- 新年の御挨拶 2
- 平成20年度（第24回）
■ 牛に係る家畜人工授精に関する講習会開催要領 3
- 山川さんのH黒-80『北平安』の
■ 出品牛がBMS NO.12で最高位賞 4
- 平成19年度 全国肉用牛枝肉共励会 7
- 第9回 全国和牛能力共進会（鳥取全共）で、
■ H黒-80『北平安』・H黒-101『北勝福1』が大活躍!! 8
- 今後のホルスタイン種雄牛導入について 10
- ジェネティクス北海道の黒毛和種種雄牛について 12
- 海外研修報告 14



H黒-80 北平安

謹賀新年

新年のご挨拶



社団法人 ジェネティクス北海道
理事長 矢野 征男



2008年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

乳・肉用牛の改良増殖事業の推進にあたり、日頃より格別のご厚情を賜りまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

平成19年を振り返りますと世界的にバター・チーズ・脱脂粉乳などの乳製品が、国際情勢の激変により需給が逼迫している中、豪州における2年連続の早魃による乳製品・穀類の生産減少とバイオエネルギー生産による世界的な穀類価格高騰が継続しております。

これらの影響を強く受けて濃厚飼料の高騰および原油高を背景にした各種資材の高騰により酪農・畜産経営は大変厳しい状況に直面しており、今後はより自給飼料基盤に立脚した畜産経営が重要になってくることと共に乳価引き上げは酪農業界の必達目標になってきております。

また、飲用乳の消費が4年連続前年割れしている反面、バター・生クリーム・脱脂粉乳など乳製品の国内在庫も品薄状態になってきておりますが、酪農家の皆様のご努力により漸く生乳生産は確実に力をつけてきており、今後は増産型の計画生産に対応して行く必要があります。

更には、道内で大手乳業会社により新增設された大型チーズ工場が相次いで稼動するなど、国産チーズに明るい展望が見えてきました。

一方では、近年の夏季間猛暑の影響により、搾乳牛の発情・受胎性への影響が引き続き懸念されております。

肉用牛においては、国の食料・農業・農村基本計画の生産努力目標は、平成27年度までに肉専用繁殖雌牛を毎年11,000頭ずつ増頭しながら、

目標頭数を730,000頭としており、担い手・飼料基盤・畜産環境問題などの面から、北海道への期待が益々高まってきております。

そのような状況下における本団事業につきましては、国内の乳用牛後代検定事業より選抜された経済性の高い検定済種雄牛を活用していただき、受胎性の向上と共に乳牛の遺伝改良を図りながら酪農経営の向上に貢献して行くため、全道隈なく凍結精液の利用拡大のため積極的に各種事業展開を推進しております。

また、19年度から一般販売を開始しました、雌雄判別精液(GH-X)については、その活用により更に効率的な優良雌牛の拡大が図られてきており、なかなか需要に追いつかない状況ですが、今後一層努力を重ねて行くつもりです。

黒毛和種については、道内関係者のご協力により計画どおり後代検定事業を推進することが出来、その中より全国的評価を得ている種雄牛『北平安』が高い遺伝改良力を発揮しており、その後続く新たな種雄牛も出現してきております。

北海道の黒毛和種生産者の皆様に地元の優秀な検定済種雄牛を安心して活用願える状況になって参りました。

これら一重に酪農、肉牛経営生産者の皆様と関係者のご指導・ご協力の賜物と心から感謝いたしております。

新年につきましても、酪農・肉牛経営向上のお役に立つため、役職員一同一丸となって努力を重ねて行く所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成20年度(第24回) 牛に係る家畜人工授精に関する講習会開催要領

牛に係る家畜人工授精師を養成するため、次により講習会を開催する。

1 講習会

- (1)開催者: 社団法人ジェネティクス北海道
- (2)開催期日: 平成20年5月12日(月)から
同 年6月 5日(木)まで (日曜日を除く22日間)
- (3)場 所: 財団法人清水町農業振興公社
上川郡清水町字御影南2線77番地(Tel 0156-63-2011)
- (4)受講資格: 牛に係る家畜人工授精師の免許を取得しようとする者で、家畜改良増殖法第17条の規定(別記を参照)に該当しない者。
- (5)受講人員: 30名程度
- (6)選考方法: 希望者が受講人員を上回った場合は、次により選考します。
ア 推 薦 家畜人工授精事業を実施している農業協同組合又は農業共済組合等の職員であって、授精事業に従事する予定の者。
イ 一 般 上記ア(推薦)以外の者については、書面審査及び選考試問を行なう。
・選考試問は、畜産に関する一般常識及び生物に関する筆記試験とする。
・生物に関する問題は、中、高等学校における生物の教科の範囲から出題する。
- (7)講習科目: 家畜改良増殖法施行規則第23条に定められた科目及び時間数。

2 修業試験 学科及び実習

- (1)日 時: 平成20年6月5日(木)及び6日(金)
- (2)場 所: 上記1の(3)に同じ

3 受講手続 次の書類を社団法人ジェネティクス北海道理事長に提出する。

- (1)推薦(1,(6),ア): **受講願書**(別記様式)、**履歴書**(市販様式に限る)及び**推薦書**
・推薦書は、受講理由を記載した所属組合長が発行する書面
- (2)一般(1,(6),イ): **受講願書**(別記様式)及び**履歴書**(市販様式に限る)
・履歴書に家畜人工授精師を志望する理由を明記すること
・選考試問の実施期日及び場所については別途本人に通知する
- (3)提出期限: **平成20年3月15日(土)必着**とする。

4 受講料: 60,000円(宿泊費等を除く)

5 受講許可 受講許可又は不許可については、書面で本人に通知する。

6 その他

- (1)宿泊は、各自が旅館等に申し込むこと。
なお、車中又はテント内で宿泊する者は受講を認めない。
- (2)提出された書類は返却しない。
- (3)受講願書等の送付先及び講習会についての問い合わせ先は次のとおり。

社団法人 ジェネティクス北海道・生産部
〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1 北農ビル
[Tel 011-242-9644, Fax 011-242-9651]

家畜改良増殖法第17条の規定

(家畜人工授精師の免許を与えない場合)

- 第十七条 成年被後見人又は被保佐人には、前条第一項の免許(註1)を与えない。
- 2 次の各号のいずれかに該当する者には、前条第一項の免許(註1)を与えないことができる。
- 一 心身の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行うことができない者として農林水産省令(註2)で定めるもの
 - 二 麻薬又は大麻の中毒者
 - 三 家畜伝染病予防法、種畜法、薬事法、獣医師法、獣医療法もしくは家畜商法又はこれらの法律に基づく命令の規定に違反し、罰金以上の刑に処せられた者
 - 四 この法律(註3)又はこの法律に基づく命令の規定に違反した者
- 3 都道府県知事は… (略)

註1: 家畜人工授精師の免許

註2: 農林水産省令(家畜改良増殖法施行規則第二十六条の二)

- 一 視覚、聴覚、音声機能もしくは言語機能又は精神の機能の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行なうに当たって必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行なうことができない者
- 二 上肢の機能の障害により家畜人工授精師の業務を適正に行なうに当たって必要な技能を十分に発揮することができない者

註3: 家畜改良増殖法

受講願書様式

受 講 願 書

平成 年 月 日

社団法人ジェネティクス北海道
理事長 矢野 征男 様

所 属
本籍地(都道府県名)

現住所

氏 名

昭和・平成 年 月 日生

牛に係る家畜人工授精に関する講習会を受講したいので、関係書類を添えて提出します。

[日本工業規格A4横書]

山川さんの H黒-80

『北平安』の

出品牛がBMS NO.12で最高位賞

左)優良賞獲得の
川元 康男さん

右)最優秀賞・優秀賞
獲得の山川 克之さん

—第4回 ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会—

去る、平成19年9月29日(土)、第4回 ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会が(株)北海道畜産公社 道東事業所 十勝工場で開催され、全道各地から黒毛和種52頭(去勢 27頭・雌 25頭)が出品されました。

その内訳は、H黒-80『北平安』18頭(去勢 14頭・雌 4頭)、H黒-45『東龍』6頭(去勢 6頭)、その他種雄牛 6頭(去勢 3頭・雌 3頭)と一般肥育牛が多く出品されました。

その他、H黒-132『国牽白清』、H黒-136『襟裳勝36』等の現場検定材料牛が22頭(去勢 4頭・雌 18頭)が出品されました。

全体の成績では、枝肉の4等級以上の上物率は50.0%(去勢 74.1%・雌 24.0%、一般肥育牛 70.0%・現場後代検定材料牛 22.7%)でした。

各平均値は、出荷月齢 29.7ヶ月(去勢 29.3ヶ月・雌 30.1ヶ月)、枝肉重量 439.4kg(去勢 466.9kg・雌 409.7kg)、ロース芯面積 58.5cm²(去勢 61.1cm²・雌 55.6cm²)、バラの厚さ 8.0cm(去勢 8.2cm・雌 7.7cm)、BMS NO.5.7(去勢 6.6・雌 4.7)でした。

尚、H黒-80『北平安』については、特筆すべき

成績であり、出品牛平均は、出荷月齢 29.4ヶ月(去勢 29.2ヶ月 雌 30.1ヶ月)、枝肉重量 456.6kg(去勢 453.7kg 雌 466.5kg)、ロース芯面積63.1cm²(去勢 62.9cm² 雌 64.0cm²)、BMS NO.7.3(去勢 7.1 雌 7.8)とロース芯面積およびBMS NO.において全牛平均を大きく上回っておりました。また、A-4等級以上の上物率は77.8%(A-5 33.3%)と大変優秀な枝肉成績でした。

審査委員長講評

(社)日本食肉格付協会 北海道支所

帯広事業所長 曾谷 和彦 審査委員長
雌の出品は25頭で、枝肉重量は、平均409.7kgで前回422.2kgでしたので、前年より12.7kg小さくなっておりました。

歩留等級に関する各項目の測定値は表1のとおりです。

〈表1〉	今回	前回
ロース芯面積	55.6cm ²	54.8cm ²
バラの厚さ	7.7cm	7.6cm
皮下脂肪の厚さ	2.4cm	3.0cm

でした。

枝肉は小さくなりましたが、全ての測定項目が良くなっており、全頭がAランクになっておりました。肉質等級は、表2のとおりです。

〈表2〉	今回	前回
「5」等級	2頭 (8.0%)	5頭 (13.5%)
「4」等級	4頭 (16.0%)	14頭 (37.9%)
「3」等級	1頭 (4.0%)	13頭 (35.1%)
「2」等級	8頭 (32.0%)	5頭 (13.5%)

「4」等級以上適合率は、24.0% (前回 51.4%) で脂肪交雑が不足気味で肉色の濃いものが少し見受けられました。

去勢の出品は27頭で、枝肉重量は、最大555kg、最小336kgで、平均466.9kgでした。前回454.1kgでしたので、12.8kg大きくなっており、全国平均より13.5kg上回っておりました。

歩留等級に関する各項目の測定値は表3のとおりです。

〈表3〉	今回	前回	全国
ロース芯面積	61.1cm ²	55.3cm ²	54.0cm ²
バラの厚さ	8.2cm	7.6cm	7.6cm
皮下脂肪の厚さ	2.1cm	2.7cm	

和牛であればクリアして頂きたい「4」等級以上の適合率は74.1%で、肉質の改善が見られた前回は13.0%と大きく上回り、肉質・肉量双方の改良が確認できた有意義な共励会となりました。

今回、最優秀賞に輝いたのは、音更町 山川 克之氏出品で、父:北平安(H黒-80)、母の父:隆桜、母の祖父:藤桜、去勢、枝肉重量512kg、ロース芯面積81cm²(今回の出品中最大)、バラの厚さ8.6cm、皮下脂肪の厚さ1.6cmで歩留基準値は77.8(今回の出品中最大)、BMS NO.12、肉色3番でA-5等級に格付されております。

全体に厚みがあり、モモも大きくボリューム感もあり非常に体型が良く仕上がっており、モモへのサシの抜け状況も、今回のトップクラスです。

切開面もきめ細かく十分にサシが入っており、光沢が十分で、肉色・肉締まりも非常に良好であり、肉質・肉量共に、今共励会の最高位にふさわしく、審査員全員一致で選出いたしました。

優秀賞は、これも音更町 山川 克之氏出品で、父:北平安(H黒-80)、母の父:糸福、母の祖父:茂糸波、去勢、枝肉重量461kg、ロース芯面積75cm²、バラの厚さ8.5cm、皮下脂肪の厚さ1.8cm、BMS NO.11、肉色4番、格付けA-5等級でロース芯面積大きく、皮下脂肪が薄く、無駄の無いロース切開面で、きめ細かい脂肪交雑が見られました。

優秀賞の2頭目は、新冠町 庄司 敏氏出品で、父:北平安(H黒-80)、母の父:平茂勝、母の祖父:安福、雌、枝肉重量494kg、ロース芯面積65cm²、バラの厚さ9.1cm、皮下脂肪の厚さ2.5cm、BMS NO.10、肉色4番、格付けA-5等級で、モモへの抜けも良く大変優れた枝肉となっておりましたが、やや脂肪交雑が荒く上位2頭との差となりました。

今共励会の入賞牛7頭中6頭がH黒-80『北平安』で最優秀賞・優秀賞(2頭)・優良賞(3頭)と賞を独占しており、上物率77.8%(去勢78.6%・雌75.0%)と『北平安』の肉の照り・ロース芯の形状・モモ抜け・バラの厚さ・僧帽筋の厚さなどの良さを十分実感出来る共励会でした。

(以上、審査講評より抜粋しました。)



北平安 第4回

ジェネティクス北海道
黒毛和種枝肉共励会

最優秀賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

去勢
30ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:隆桜 × 母の祖父:藤桜 肥育者:音更町 山川 克之氏
枝肉重量512kg ロース芯面積81cm² BMS No.12 格付A-5

優秀賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

去勢
31ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:糸福 × 母の祖父:茂糸波 肥育者:音更町 山川 克之氏
枝肉重量461kg ロース芯面積76cm² BMS No.11 格付A-5

優秀賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

雌
29ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:平茂勝 × 母の祖父:安福 肥育者:新冠町 庄司 敏氏
枝肉重量494kg ロース芯面積65cm² BMS No.10 格付A-5

優良賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

去勢
29ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:賢深 × 母の祖父:茂重波 肥育者:新冠町 庄司 敏氏
枝肉重量458kg ロース芯面積77cm² BMS No.10 格付A-5

優良賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

去勢
31ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:茂勝 × 母の祖父:安福165の9 肥育者:音更町 川元 康男氏
枝肉重量535kg ロース芯面積65cm² BMS No.9 格付A-5

優良賞

ホクレン十勝枝肉市場
平成19年9月29日止場

去勢
29ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:北国7の8 × 母の祖父:安福165の9 肥育者:幕別町 柴山 匡氏
枝肉重量498kg ロース芯面積61cm² BMS No.9 格付A-5

『北平安』黒毛和牛牝牛の部で “優良賞1席”獲得!! ～平成19年度 全国肉用牛枝肉共励会～

国内最大規模の『平成19年度 全国肉用牛枝肉共励会』が10月26日、東京都中央卸売市場において盛大に開催された。

今年で25回を迎え、全国28道府県から『肥育名人』の称号を目指して、429頭(黒毛和種去勢牛262頭、黒毛和種雌牛124頭、交雑種去勢牛43頭)のハイレベルな枝肉が集結しました。

本団の種雄牛では、【第1部 乳用去勢牛および交雑種去勢牛】にH黒-45『東龍』17頭出品で優秀賞、優良賞1席、優良賞2席を獲得し、H黒-80『北平安』、JB-24『北乃大福』がそれぞれ1頭出品され、惜しくも入賞には至りませんでした。A-4、B-4の評価を頂きました。

【第2部 和牛去勢牛】には、H黒-80『北平安』7頭出品で6頭がA-5で、上物率100%でした。

【第3部 和牛牝牛】には、H黒-80『北平安』

5頭出品でA-5率は80%でした。

宮城県栗原市 鈴木秀一氏出品の「かずと」号(母の父 茂糸波、母の祖父 菊谷)が出荷月齢31ヶ月、枝肉重量483kg、ロース芯面積82cm²、バラの厚さ8.6cm、BMS NO.12、各付A-5となり見事と優良賞1席に輝きました。

特に『北平安』の特徴が良く出ており、かぶりの厚さ、ロース芯の形状、モモ抜けに優れたバランスの良い大変立派に仕上がった枝肉でした。

今回黒毛和種の部に出品されたH黒-80『北平安』12頭の平均は、枝肉重量490.8kg、ロース芯面積68.3cm²、バラの厚さ8.6cm、BMS NO.8.3と枝肉のバランスが良く、しかもバラツキが無く上物率91.7%と、質と量共にレバルの高い全国枝肉共励会の中でも際立って優れた枝肉が揃って出品されておりました。

撮影:(有)北国肉牛商事

H黒-80

きた ひら やす
北平安

平成19年度
全国肉用牛枝肉共励会
第3部 和牛牝牛
東京食肉市場 平成19年10月26日上場

**優良賞
1席**

雌
31ヶ月齢

父:北平安 × 母の父:茂糸波 × 母の祖父:菊谷 肥育者:宮城県 鈴木 秀一氏 枝肉重量483kg ロース芯面積82cm² BMS No.12 格付A-5



第9回 全国和牛能力共進会（鳥取全共）で、 H黒-80『北平安』・H黒-101『北勝福1』が大活躍!!

第9回全国和牛能力共進会は、全国和牛登録協会（福原利一会長）主催による5年に1度開催される、言わば和牛のオリンピックとして、「和牛再発見！ - 地域で築こう和牛の未来 -」をテーマに、地域の特色ある牛づくりと種雄牛能力の改良という2つの課題の基、平成19年10月11日（木）～14日（日）までの4日間、鳥取県において各県代表牛が一堂に会し開催されました。

米子市は種牛の部313頭、大山町鳥取県食肉センターでは肉牛の部181頭の計494頭と過去最大の出品頭数でした。

大会期間中は好天に恵まれ27万人を超える来場者数で大盛会の全共となりました。

北海道からは、過去最大22頭の代表牛が出場し、全9部門のうち、出場の無かった、第4区（系統雌牛群）を除く8部門に出場し、うち4部門で優等賞を獲得するなど大健闘しました。

なかでも、ジェネティクス北海道種雄牛が大活躍しました。

枝肉を審査する第9区（去勢肥育牛）は、より効率的な肉牛生産へのアプローチとして、出品牛を通常より短い24ヶ月齢未満にすることで、限られた期間でどこまで肉の量・質を向上させられるかが鍵となります。この部門にはH黒-80『北平安』の去勢牛2頭が出品され、上士幌町のJA上士幌町肥育試験センター出品牛の『松平安05』号が、枝肉重量442kg、ロース芯面積68cm²、BMS NO. 11、格付 A-5で優等賞5席、幕別町の山田貴赦氏出品牛『藤平安』号が、枝肉重量479kg、ロース芯面積59cm²、BMS NO.8、格付 A-5で優等賞19席に輝きました。

また、今回の共進会では、オレイン酸の割合を測定し、肉質評価の際に考慮するという新たな試みが行われ、注目を集めました。

第7区（総合評価群）は、種雄牛の種牛能力と産肉能力を総合的に評価する区で、今回北海道から初めての出品となりました。

日高管内の平取町育種推進組合がH黒-101『北勝福1』の種牛4頭と肉牛3頭が出品され総合評価を競いました。

去勢肥育牛群（3頭1組の枝肉評価）では、賀集昭知氏2頭の出品牛が、枝肉重量427と379kg、ロース芯面積58と57cm²、BMS NO.10と9、格付 A-5、佐藤 貢氏出品牛が枝肉重量393kg、ロース芯面積53cm²、BMS NO.7、格付 A-4で第2位となる見事な成績で、種牛評価と合わせた総合評価では1等賞2席に輝きました。

全国的に注目を集めている、H黒-80『北平安』が全日本共進会の檜舞台で大輪の花を咲かせることができました。

また、H黒-101『北勝福1』は、初の試みとなる第7区への出品で、不安な面もありましたが、晴の檜舞台でのお披露目としては十分満足できる立派な成績をおさめ、数多い『平茂勝』の息仔牛のなかで最も期待される種雄牛の一頭として、全国の和牛関係者に認められたのではないのでしょうか。

次回、5年後「長崎県」では、H黒-132『国牽白清』・H黒-123『北安勝23』・JB-24『北乃大福』・H黒-125『北勝隆25』等が大活躍し北海道和牛の実力をアピール出来ますことを願っております。

H黒-80

北平安

第9回 全国和牛能力共進会 第9区(去勢肥育牛)



父:北平安 × 母の父:平茂勝 × 母の祖父:福桜 肥育者:上士幌町 JA上士幌町肥育試験センター
枝肉重量442kg ロース芯面積68cm² BMS No.11 格付A-5



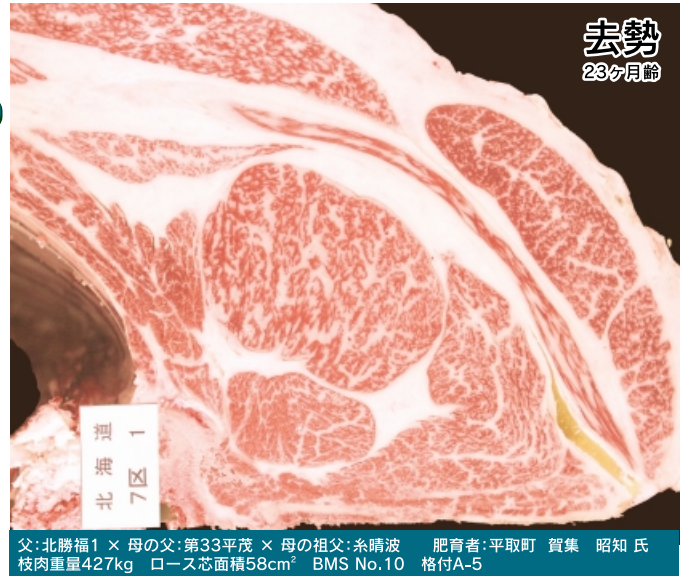
父:北平安 × 母の父:平茂勝 × 母の祖父:安福165の9 肥育者:幕別町 山田 貴敏 氏
枝肉重量479kg ロース芯面積59cm² BMS No.8 格付A-5

H黒-101

北勝福1

第9回 全国和牛能力共進会
第7区(総合評価群) 1等賞2席

去勢 肥育牛群
2位



父:北勝福1 × 母の父:第33平茂 × 母の祖父:糸晴波 肥育者:平取町 賀集 昭知 氏
枝肉重量427kg ロース芯面積58cm² BMS No.10 格付A-5



父:北勝福1 × 母の父:平茂勝 × 母の祖父:紋次郎
肥育者:平取町 賀集 昭知 氏
枝肉重量379kg ロース芯面積57cm² BMS No.9 格付A-5



父:北勝福1 × 母の父:北忠福 × 母の祖父:福長
肥育者:平取町 佐藤 貢 氏
枝肉重量393kg ロース芯面積53cm² BMS No.7 格付A-4

今後のホルスタイン種雄牛導入について

1. 収益の上がる牛づくりをめざして

近年における濃厚飼料、燃料費、資材費の高騰により、1頭当たりの収益性をいかに上げていくかという意識がさらに高まってきております。高能力牛であってもその牛が短命であっては、それまで費やした経費(育成費、繁殖費、人件費など)をカバーできない可能性もあります。また、最近では高能力牛が多い反面、繁殖能力の低下も指摘されており、乳牛改良は従来有能力と体型に加え管理形質(分娩難易、気質、搾乳性、在群期間)とのバランスが更に重要な課題となってきております。

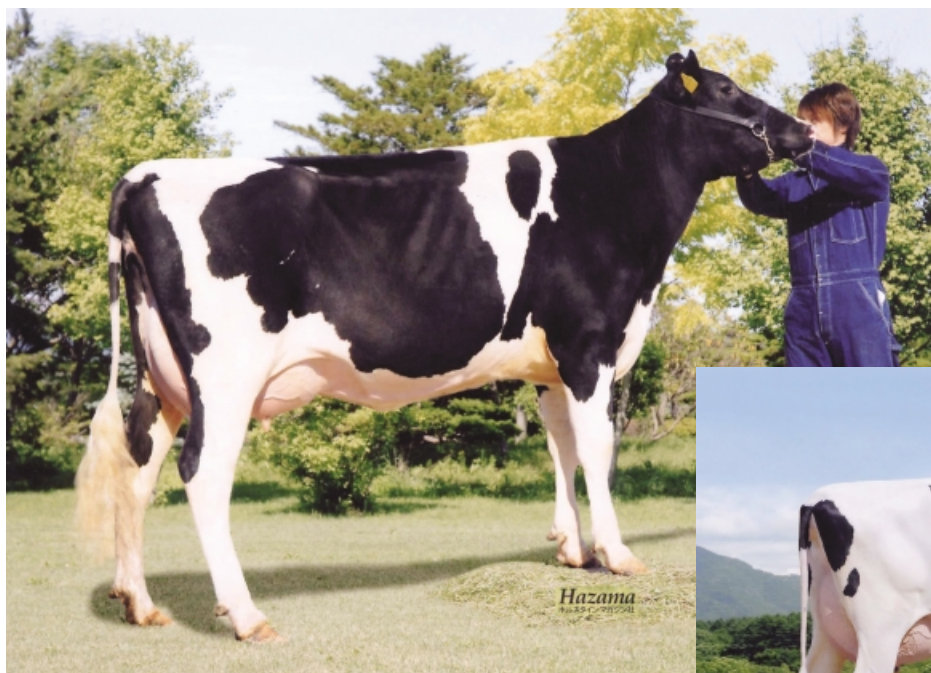
本団は昨年に引き続き、乳牛が生涯健康を維持し長命連産で、どれだけ良質な牛乳を多く生産してくれるのかを念頭に置きながら今後の候補種雄牛の造成・導入に努めていきたいと考えております。

2. ブルダムの血液

ブルダムの血液には、高い泌乳能力を備えていることが第1条件で、次いで乳器、肢蹄、特に乳房底面の高さ、乳頭配置および長さを最も重要視して選んでおります。

また、尻の角度(繁殖性を重視して)に重み付けをおいた選定を行っております。

ロイレーン ジエスロ ET (JP3H03479)、キヤローゼルアス タイタニック ET (JP3H51676)、サンデイバレー バレット ET (JP3H51853)、アルタジエン マンフレッド ノマド ET (JP5H51940)、オーマン(アメリカ)、ポリバー(アメリカ)、ゴールドウイン(カナダ)、シヤトル(イギリス)、タイタニック(カナダ)、ラモス(ドイツ)、ランスロット(ドイツ)の娘牛を対象とし、未経産牛では今後、ライスクレスト ヒルトン ET (JP3H52585)、トイストーリー(アメリカ)の娘牛を対象とする予定です。



ヘンカシーン ヒラリー オリーブ ET GP-83 NTP+2,761
 父: エンドロード PVF ポリヴァー ET (2007年11月)
 母: ヘンカシーン ヒラリー デイ ハーシエル
 湧別町 加藤 智行氏 所有



ストーンリバー ジャスト ブランディ ET GP-82 NTP+1,958
 父: オービー マンフレッド ジャステイス ET (2007年11月)
 母: サンデイバレー ハー ブランディ ET
 豊富町 石川 志宏氏 所有



レデイスマナー セクシー パラダイス ET EX-90 NTP+2,691
 父：ロイレーン ジェスロ ET (2007年11月)
 母：レデイスマナー ギャルズ パラダイス
 兵庫県 小谷 正子氏 所有



ヘンカシーン ヒラリー プリンセス VG-85 NTP+2,722
 父：ロイレーン ジェスロ ET (2007年11月)
 母：ヘンカシーン ヒラリー デイモンド
 湧別町 五島 順二氏 所有



センバ タイニー エリー ET GP-83 NTP+1,499
 父：ハートライン タイタニック ET (2007年11月)
 母：カーントウエイ ダーハム エミリー ET
 天塩町 泉波 展幸氏 所有



レデイスマナー キューティクル パラダイス ET
 父：ジェニー ルー MRSHL トイストーリー ET
 母：レデイスマナー キュート パラダイス ET
 更別村 天野 洋一氏 所有

3. 計画交配に利用する種雄牛

計画交配に用いる種雄牛としてサンデイバレー ブルーブラッド ET (JP3H53008) を挙げます。ブルーブラッドは、乳成分の高い『サウスウインド ケイ』ファミリーの中でも機能的体型に優れた『ブライアン』を祖母に持ち、長命性に深く関与する乳器と肢蹄改良に優れており、ファーストクロープの娘牛も安定した能力と体型を備えております。

また、近交回避のためにフランスのジヨコベズネ やドイツのルーカスを父にもつジェット ストリーム (29H10792) やランスロットを取り入れています。また、セカンドクロープ牛で長命性の遺伝評価が高い牛についても積極的に利用しており、ドイツのラモスやアメリカのポリバーも利用しています。カナダからはMR バーンズ (200H5024) を利用しております。

4. 優秀な候補種雄牛を確保する一方、優秀な雌牛育種集団の造成にも目を向けたい

本団は、国内外問わず優秀な遺伝子を求めて調査を進めておりますが、近年国内においても世界レベルで活躍できる優秀な遺伝資源が多数揃ってきております。本団はこれらの血液を積極的に活用し、優秀な種雄牛を確保する一方、優秀な雌牛育種集団の造成にも力を入れて行きたいと考えております。

ジェネティクス北海道は、皆様のニーズにお応えするため、多様な種雄牛メニューを備えることを目指しております。中でも、皆様に効率良く収益を上げて頂くため、高泌乳能力で長命連産に富んだ温和で飼い易い乳牛、体型面ではフレームが正確で崩れない骨格、丈夫な肢蹄、付着形状の良い乳器を持つ、機能的体型の遺伝子をお届けしたいと考えております。

(乳牛改良課 藤田 功)

ジェネティクス北海道の黒毛和種種雄牛について

平成19年度より、北海道の黒毛和種種雄牛造成は、関係団体の総意で設立された「北海道和牛戦略会議」を中心に推進することが検討され、北海道の和牛改良の指針としての「北海道和牛改良推進プラン」が策定されました。これからの和牛振興に対し、北海道一丸となった取り組みが進められる予定です。

その中で、ジェネティクス北海道が平成6年より開始した間接検定は現場後代検定へと移行し、平成18年度以降は全て現場後代検定になっております。

現場後代検定は年間6頭の候補種雄牛で行っていますが、移行期間に間接検定と現場後代検定を併用した『北安勝23』、『北大日24』、『北勝隆25』、『北安菊27』、『繁見』、『国牽白清』、『北安柳33』、『北次郎34』、『襟裳勝36』の9種雄牛は間接検定を全て終了し、3頭が現場後代検定の結果を待っております。

両検定を終了したH黒-123『北安勝23』は平成19年3月の北海道育種価において脂肪交雑のNo.1に輝いた種雄牛です。平茂勝×安福×谷福土井×安美土井と純粋な但馬牛へ平茂勝を交配した系統間交配の種雄牛であり、育種価通りの脂肪交雑に加え、枝肉重量、ロース芯面積等でバランスの良い改良が期待される種雄牛です。

同じく育種価で脂肪交雑の第4位にランクされたのがH黒-125『北勝隆25』です。現在、各地の子牛市場に良好な産仔が上場されており、評価を不動としつつある種雄牛です。血統構成は平茂勝×隆桜×第20平茂×第33気高と気高が強く、産仔は高さで強さに定評があり、さらに間接検定と現場後代検定の結果からも肉質にも期待ができる種雄牛です。

現場後代検定の枝肉は平成18年度 第3回

ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会でも最優秀賞・優秀賞にも輝いております。

H黒-96『北茂勝96』は茂勝×茂重波×奥秀×富光という血統構成であり、現場後代検定材料牛はBMS No.12をはじめ枝肉のバランス、斉一性等に優れ、肉質の良いものが数多く上場されておりました。現場での肥育成績は平成20年秋以降に判明する見込であり、産肉成績が再確認できるものと期待しております。

次にジェネティクス北海道の代表種雄牛H黒-80『北平安』について報告させていただきます。安平×菊照土井×菊安土井×菊茂土井という血統構成による脂肪交雑能力の大変優れた種雄牛です。

能力成績は平成19年度に入り花開き、第4回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会の入賞牛7頭中6頭で最優秀賞(BMS No.12)・優秀賞(2頭)・優良賞(3頭)を独占したのをはじめとし、全国各地の共励会で数多くの優秀な実績を上げています。中でも鳥取県で行われた第9回全国和牛能力共進会第9区去勢肥育牛で優秀賞5席(BMS No.11)、平成19年度全国肉用牛枝肉共励会 第3部和牛牝牛の部 優良賞1席(BMS No.12)とハレの大舞台で実力の高さを肥育農家の皆様共々実感することができました。

また、そのほかにも本団に寄せられる一般市場も含めた肥育成績も極めて良好であり、集計を終えた去勢牛の上物率は74%(149頭)、メス牛では68%(59頭)、合計で72%(208頭)の上物率となりました。

もう一頭の本団代表種雄牛は安福×谷美土井×田森土井×菊美土井の血統構成によるJB-24『北乃大福』です。本牛は『北平安』の牙城を脅かすほどの実力をもつ種雄牛です。現場後代検定の上物率90%の実績で、産肉能力成績が急上昇中の種雄牛です。

現在寄せられているその産肉能力は平成19年度いわて奥州牛枝肉共進会の最優秀賞(BMS No.12)など、各地の共進会でBMS No.が二桁表示が続発しております(近日お知らせ予定!!!)。卓越した脂肪交雑に今後とも、注目して下さい!!

第9回全国和牛能力共進会での活躍で一躍注目を集めたのが平茂勝×安福×茂富士×新月の血統構成であるH黒-101『北勝福1』です。現場後代検定では60%を超える上物率となりましたが、同期の本団種雄牛の実績におされ気味でしたが、現場の肥育成績は良好で、全共第7区総合評価群の去勢肥育牛群で能力の高さ(BMS No.10、BMS No.9、BMS No.7)を確認することができました。今後の枝肉成績の集計結果が心待ちされます。

現在、現場後代検定の成績を待っている種雄牛の1頭がH黒-132『国牽白清』です。間接検定成績で斉一性に富み、現場後代検定の成績に注目が集まっております。血統は飛驒白清×茂勝×紋次郎×糸光◆という構成でさらに本牛の母親、母方祖母、また母方祖々母に至るまで体格審査得点84.5点と立派な成績であり、本牛も非常に大柄でバランスが良い体躯であります。肥育成績もBMS No.11(去勢593kg)をはじめBMS No.10が3頭(いずれも雌502kg,499kg,501kg)など、立派な枝肉ランクが集まりつつあります。

検定中の種雄牛について

現在、検定中の候補種雄牛のうち注目したい種雄牛を数頭紹介いたします。

『美津勝51』は平茂勝×谷美土井×田森土井×菊美土井という血統構成となり、母親は「たにみ」であり、『北乃大福』の同母弟となります。今年生産された材料牛も体型は上々で今後の活用が期待されます。現場後代検定が開始されております。

『菊糸松56』は須恵福×第7糸桜×菊照土井

×安谷土井であり、北金波1の異父兄弟になります。本牛の受精卵による兄弟がBMS No.11になるなど能力の高さに期待できる種雄牛です。今月より現場後代検定が開始されます。

『鶴仙翔』は宮崎県より導入した種雄牛です。現在調整交配中ですが、血統構成は福桜×上福×安平と宮崎県を代表する種雄牛が名を連ねます。本牛は発育・均称も良好で骨味・品位に優れた種雄牛であります。調整交配終了後に一般での利用が可能となります。

後代検定の活用の仕方について

調整交配の御協力により、生産された仔牛達は現場後代検定の材料牛として肥育されます。このことにより産肉能力の成績は確実にフィードバックされ、父親である候補種雄牛の遺伝能力が判断されます。併せて調整交配された母親の遺伝能力も判明します。

そうなれば、いち早くメス牛に本団後代検定牛を交配することによって、メス牛自身の能力を早期に判定することができることに加え、自分の牧場で使うことのできる種雄牛も造成できるということになります。

また、牧場の後継牛の生産にも母親の育種価を早く利用して後継牛を確保することができるので初期の材料牛の生産は重要な意義があります。初産に本団後代検定牛を交配すれば母親が4歳のときに産肉能力の情報が判明するため、2産目、3産目の産仔を後継牛として保留することができます。

若メスからの現場後代検定材料牛の生産は生産者にとっても、肥育者にとっても、大変良いことであるため、積極的に後代検定の材料牛生産に御協力頂きたいと思っております。お問い合わせはお近くの事業所までお寄せくださいますようお願いいたします。m(_ _)m

(肉牛改良課 石田 誠)

～酪農ビジネス先進国にかしまし娘が行って来ました～



今秋、アメリカ乳牛改良状況に関する現地研修の一環として、本団のアメリカ東部資源調査（優秀な雌牛を調査、受精卵を契約・輸入し、将来のジェネティクス北海道の種雄牛候補を作出する）に同行し、さらにワールド デーリィ エキスポを視察するというビッグチャンスをいただきましたので、その一部を皆さまに報告いたします。

○調査牧場○

私たちが販売している凍結精液は、どんな牧場から生産されている種雄牛なのか。

雌牛調査にお邪魔した26牧場の各経営者に、いくつか用意した質問事項に答えてもらいました。調査は、種雄牛を多数産出している牧場（ライスクレスト、ラタッチ、レディスマナー、ウェルカム、キングスランソム、オービー牧場等々）を主な対象としましたが、改良目標・現在使用している精液に関する質問には、多くの酪農家が PL（生産寿命）と肢蹄・乳器を重視すると返答がありました。また、セカンドクロップの加わった信頼度の高い種雄牛を使用しているという声も多く聞かれました。

なるほど、ポリバーやゼニスの名前が挙がるのも頷けます。その他には、バクスター、ニフテイ、マツク、ジェット ストリーム、ボルトン等、北米の種雄牛に関しては日本と使用している精液に大差がないという印象でした。

また、アウトクロスと管理形質の高さを意識してカラモス、ジョーデン等ドイツの種雄牛がいくつかの牧場で使われておりました。

エリートカウについては別頁にて改良部より報

告がありますが、特別大きくてデーリィな牛！ というよりは、大きさは中程度で、乳器の形状がよく搾乳しやすい機能的な体型をしており、PLを含む管理形質の高い雌牛を選考しておりました。調査雌牛は、普段から特別に飼養されている様ではありませんでした。しかしながら、多くの経営者はカウファミリーをととても大切にしている、本牛やそのファミリーの写真や能力、ショウ暦について熱心にお話し下さいました。

給餌方法や現在の乳価についても尋ねました。子牛の管理では、約2ヶ月で離乳、3～5日目でスターターを給与などは日本とほぼ同じでしたが、白血病やヨーネ病の初乳からの感染を防ぐため、母親の初乳を与えず全量粉ミルクを与えたり、パスチャライザーという機械で生乳を殺菌して与えておりました。これも特に、エリートカウ所有酪農家であっ



パスチャライザー

たので意識していたのかも知れませんが、感染症への対応しておりました。調査は大規模から少頭数の牧場におよんだので一概には言えませんが、コーンの価格高騰に伴って乳価が今年の約2倍近くに跳ね上がったため、経営は良好だと答える

牧場がほとんどでした。その一方で、全て購入飼料のため経営が厳しい牧場、バイオ燃料に販売した方が高価のためTMRの主体であるコーン割合を減らした牧場もあり、その影響は様々でした。

大規模経営ウイリアム・J・クック牧場は、6年前には90頭の搾乳牛でしたが、現在は1,400頭まで増やしメキシコ人を雇って24時間パーラーフル稼働の3回搾乳をしていました。一方、昨年のワールド デーリー エキスポでリザーブ インターミディエイト チャンピオンを獲得したMD メープル デル ロイ イメージを繋養しているメードウー メドーズ牧場では、



MD メープル デル ロイ イメージ

レシピエント用未経産牛とドナー用乾乳牛がほとんどで、搾乳牛は20頭程度という牧場でした。これは極端な例ですが、搾りにしても、ショウにしても、全体的に“アメリカの酪農は景気が良い”と感じました。

ワールド デーリー エキスポの直前なので世界中からお客さんが集まるためなのか、どの牧場においても牛・牛舎・庭をキレイにしていたので感心しました。少し話が反れますが、ちょうど10月上旬のハロウィン時期だったので、宿泊したホテルや住宅街はそれぞれカボチャや魔女の個性的な飾り付けが施され、車での長距離移動の合間に疲れを忘れ、目を楽しませてくれましたよ。

○エキスポ視察○

いよいよ、待ちに待ったワールド デイリー エキスポの当日です！ どこもかしこもお祭りムード一色！！例年にない暑さの影響もあってか、会場は熱気にあふれていました。

ショウカウの繋留牛舎を見て歩くと、北海道早

来の会場よりスペースがゆったりし、見学者も歩き易かった様に感じます。牧場単位で出品牛を繋ぎ、ネームプレートや写真を華々しく展示し、パンフレットを配っていました。

各農業団体展示ブースも各社思考が凝らしており、世界中から集まり溢れかえった人・人・人。

ショウ会場内は毎年テーマを持って飾られるらしく、敷料もリング内も今年のカラーである紫で統一されていました。心地よいアコーディオンの生演奏が、審査のリズムを邪魔しない絶妙なタイミングで会場に流れ、テンポよく進行していきました。

審査員のカナダ オンタリオ州 バークレイ フェニックス氏、アソシエイト審査員のオンタリオ州ジェラルド コーリン氏によって、2日間で計約400頭の審査が行われました。

ショウは終始落ち着いた雰囲気、出品牛もきちんと調教されており暴れる牛など一頭もいませんでした。リングの周りに集まった観客は、審査員の手の指す方を息を吞んで見つめ、そのジャッジに一喜一憂しておりました。

未経産は胸が強く四肢の長いスタイリッシュな牛が揃っていました。ジュニア チャンピオンに選ばれた子牛秋生1位 MS アトリース ロイ オータム ET(父:ロイ、コネチカット州シャノン アレン他)は、美しいバランスとデーリーキャラクターを絶賛されていました。

初日の未経産牛審査終了後に行われたワールド クラシック セールでは、会場のどよめく中、バドジョン レッドマーカ デザイアーに最高額である\$85,000(約1,000万円!)がつき、翌日の125,000ポンド級で1位を獲得しました。



バドジョン レッドマーカ デザイアー

2日目の経産牛審査ではリングの真横に陣取り、次々にピックアップされてくる名牛達をベストポジションで鑑賞することが出来ました。

経産牛、特に若いクラスでは、上位から下位まで後乳房の付着の高さと幅のある牛がズラッと並んでおりました。インター ミディエイト チャンピオンに選ばれた3歳シニアクラス1位のハービュー ロイフロステイ(父:ロイ、ウイスコンシン州マイク デュケット他)と、リザーブ インターミディエイト チャンピオン3歳シニアクラス2位のラパー 1593 ジン 1824(父:ギブソン リジス、ウイスコンシン州トム リオン他)はともタイプの似た2頭でしたが、僅かな差で前乳房の付着の強いロイがチャンピオンとなり、後にリザーブ グランド チャンピオンに輝きました。

シニアの経産牛は、乳器もさることながら強い背線とフレームが印象的でした。中でもシニア チャンピオンとなった成牛クラス1位のエリータ スカイバックルーシー(父:スカイバック、バーモント州 カウタウン牧場)は、同クラスの中では特に大柄な牛ではありませんが、あと何年も搾れそうな体と乳器を備えていました。彼女は後にグランド チャンピオンになりました。

おそらく会場にいた全員が注目し、期待を寄せていたであろうヒルクロフト リーダー メラニー(コネチカット州 アレスーザ牧場)は、残念ながら調整不

良のため欠場でした。が、前日に繋留牛舎で見た彼女は、他を圧倒する質感! 力強いフレーム!! スケール!!! 幅!!!! ん~、なんと表現するのが正しいのか判らないのですが、彼女の発するオーラで溢れていた事は確かです。

結果の詳細は

<http://www.worlddairyexpo.com/dcs.main.cfm>

又は 2007 International Holstein Show で検索して下さい。

○最後に○

調査とショウの視察を終えて思うのは、アメリカにおける乳牛自体の体型・能力レベルの高さも去ることながら、受精卵の販売やショウにおいて大きなお金が動き、一つのビジネスとしての認識が高いこと、スーパーに並んだ乳製品の品揃えを見ても、酪農と一般の人々との距離が非常に近いこと、そして皆さん酪農を心から楽しんでいることでした。

日本の酪農の明るい未来と、今回購入した受精卵から将来ジェネティクス北海道を担う種雄牛が誕生する日に思いを馳せて、高揚する気持ちを抑えきれないまま日本への帰路に就きました。

(十勝北見事業所 吉岡勇氣)



グランド チャンピオン エリータ スカイバック ルーシー



社団法人
ジェネティクス北海道
GENETICS HOKKAIDO assoc.

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F
[業務部] TEL(011)242-9645 [改良部] 乳牛改良課(011)242-9646
FAX(011)242-9651 肉牛改良課(011)242-9647

●道央北事業所…TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113 ●十勝北見事業所(北見駐在)…TEL(0157)47-2946 FAX(0157)47-2950
●十勝北見事業所…TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150 ●十勝清水種雄牛センター…TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●道東事業所…TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325 ●十勝清水種雄牛センター-中標津分場…TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
●広域事業所…TEL(011)375-4395 FAX(011)375-2330 ●道央種雄牛センター…TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330

<http://www.genetics-hokkaido.ne.jp>